



私達の活動も3年を過ぎ、どこへ行っても顔なじみの方達がおります。「元気だった?」「こないだより暖かいお」「今日は、朝飯食ってっえ」「体の調子がいいんよお」など、以前訪れた時と比較した会話が成立します。被災直後と変わったのは、被災者との両面通行なのかもしれない。お互いがお互いを尊重し合い、お互いがお互いに敬意を示しているようなきがしてなりません。日本の良き文化だなあと、ひしひしと感じます。それでも、まだまだ仮設住宅の生活は大変な事ばかりです。もともと2年しか耐久性のない仮設住宅ですから、スキマや、床の傾きなど悩みは尽きない。修理するにも、実費負担のようだ……。もしくは市の手配した修理を果てしなく待つ……。これが現実のようです。そんな仮設住宅の部屋に、「コーヒーでも飲んでっ」「今、お茶いれるから」と優しく優しく誘ってくださる。私達、日本クリード復興支援部は、被災地に向き笑顔を返すその日まで、まだまだ活動していきます。

大関真悟

